甲子園大会より狭き門！

高校演劇コンクール近畿大会優秀校招待公演

演じる高校生

毎年、冬に行われる春秋座の名物企画「演じる高校生」。

この公演は、秋に行われる「高校演劇コンクール近畿大会」の優秀校2校を春秋座に招待し、受賞作品を上演するというもの。2001年の春秋座こけら落とし以来、毎年開催されている公演です。

この高校演劇コンクールは「演劇甲子園」とも呼ばれ、非常にシビアな予選を重ねることでも知られています。作品は創作・脚色は問わず自由ですが、制限時間は1時間以内。1秒でも超えると失格となってしまいます。そして地区大会、都道府県大会、ブロック大会を経て、全国大会へ出場校できるのは、たった12校。各都道府県から代表校が出場する高校野球の甲子園大会よりも狭き門とも言えるコンクールなのです。

春秋座で開催される「演じる高校生」に出演するのは、近畿ブロック大会を経て、全国大会へ出場する権利を勝ち取った2校。ただしコンクールと違うのは、春秋座の舞台機構――花道やセリ、盆や照明などを存分に活かし、新たな演出を試みることができるということ。大会とは違った、自由な表現による演劇ワークショップを開催したり、スペシャルゲストを招いてのアフタートークも実施するなど、演劇の世界に浸れる1日です。

今まで「演じる高校生」に出演した生徒の中には、後に映画監督になったり、本格的に俳優になった人も。瑞々しい感性で演じられる高校演劇を観に行きませんか。

今回の宣伝美術は学校法人瓜生山学園の学生（京都芸術大学・京都芸術デザイン専門学校・京都文化日本語学校・京都芸術大学附属高等学校）から公募し、選ばれたデザインです。

2023年度採用作品
村上 華保
京都芸術デザイン専門学校
コミックイラストコース2年生

2023年度の上演校は12月末に決定します！

2022年度上演校

撮影：渡邊莉那（京都芸術大学美術工芸学科）

滝川第二高等学校
『リセマ達』
作：いぐりんとその仲間達

大阪府立岸和田高等学校
『オドリ・バリデ・ジュー』
作：鈴木研太（補作：井原一葉）

演じる高校生 出演への道のり

地区大会 → 各都道府県大会 → 近畿ブロック大会 → 優秀校1校（優秀校1校）翌年春の全国大会に出場 → 最優秀校1校（優秀校1校）翌年夏の全国大会に出場 → **春秋座招待公演「演じる高校生」（優秀校2校）** → 全国大会

高校演劇のひのき舞台に
第1回「演じる高校生」が上演されるまで

春秋座の人気企画「演じる高校生」。この企画は2001年に京都芸術大学（当時・京都造形芸術大学）内に劇場ができた時、春秋座初代プロデューサー・橘市郎の「大学という教育機関の中にある劇場を高校生にも提供したい」という想いから始まったものでした。

そこで、リサーチのために橘が訪れたのは高校演劇の全国大会。しかし、「これだけの力作なのだから、もっとよい環境で上演させてあげたい。春秋座で上演すれば、もっと成果が上がるはず！」と、近畿の優秀校2校による招待上演を企画。そして近畿高等学校演劇協議会委員長の元を何度も訪ねて提案。その熱意に押された委員長と役員が春秋座を見学し、「ここで高校生の作品が上演できたら」と動き出したのが「演じる高校生」なのです。

その時に橘が言ったのは、「高校野球には甲子園という、ひのき舞台があり、みんなそこを目指してがんばっています。演劇にもそういう、ひのき舞台を提供したいんです。そして、〝高校演劇をしている人達は将来伸びない〟と言うアカデミックな先生方もいらっしゃるけれど、私はそうではないと思っています。好きこそものの上手なれということがあるように、とにかく演劇が好きになれば人の芝居も観るだろうし、演劇史も紐解いてみるだろうから、とにかくまずは好きになってほしい。そのためには、ここで演じてみたいと思える、目標になる場が必要だと思いますよ」。

高校生の気質は時代と共に変わっても、若者の心は変わらないもの。橘が高校演劇に期待したのは、「未熟な部分もあるけれど16～18歳という一番ナイーブな時に内から外に向けて出てくるもの、訴えたいものが作品に出てくること。人間は一人では生きてはいけないというコミュニケーション能力が演劇によって培われていくこと。そして今後、春秋座の舞台を踏むと全国大会で上位入賞を果たせる、というような流れができたらいいなと思います」。

今回で23回目となる本企画。今年もぜひ、高校生たちの熱い舞台をご覧ください！